

WedsSport

LEXUS

Racing Development
TRD

ADVAN
YOKOHAMA

★☆☆☆☆
Win Element Racing
北陸自動車競技グループ

アルファプロデュース

NUTECH

JMS

AD アイシン開発

ETAS

INTERFAMA

KDC

705

ENDLESS GruppeM

KTEL REAR WINDOW MONITOR

KYB ÖHLINS

TAKATA ODYSSEY

SARD APP

BRIDE BILLION

NEGIN 信濃商品 TOKOH

WedsSport
Racing Team
with BANDOCH

2009 SUPER GT Rd..9 MOTEGI GT250km RACE



- 開催日:2009年11月7日～8日
- コース:ツインリンクもてぎ(全長4.801km)
- 天候:<予選> 晴 <決勝>晴
- 路面コンディション:<予選>ドライ <決勝>ドライ
- チーム:WedsSportRacingTeam with BANDOCH
- 車名:ウェッズスポーツIS350 <GT300 ゼッケン19>
- ドライバー:織戸 学 / 片岡 龍也
- 監督:坂東正敬
- 観客動員数:予選14,000人 / 決勝35,000人

チャンピオン争いは6台、頂点に立つのはどのマシンか！

11月7日(土)

フリー走行 9:55~11:40(混走)

天気:晴 / 路面:ドライ 気温15度 / 路温21度

少し寒い秋晴れの中、1年を締めくくる最終戦のフリー走行が始まった。スタートは片岡選手、まずは3LAP目に1分56秒934を記録しトップタイムを記録した。その後はセットアップに専念し、56秒台をコンスタントに記録するも順位は8番手となる。19LAP目に暫定9番手となり、織戸選手に交代し、セッティングの確認に出る。今年のレースは2日間で全てが終る。そのため、車を持ち込んできたセッティングがどれだけ合っているかで勝負が決まる。いつもはきっちり合っている持ち込みセットであったが、今回は少し合っていなかった。それは、気温と路面、ノーウェイトという前回のデータが生かせないということだった。しかし、ドライバーのセットアップ能力とメカニックのデータをフル稼働して予選に向けたセッティングを行った。トップタイムを記録したのは、81号車ダイシン アドバン Ferrariで1分55秒955。ウェッズスポーツIS350は9番手となった。午後の予選は良い結果となるであろう。



WedsSport

LEXUS

Racing Development
TRD

ADVAN
YOKOHAMA

★☆☆☆☆
Win Element Racing
北陸自動車競技グループ

アルファプロデュース

NUTECH

JMS

AD アイシン開発

ETAS

INTERFAMA

KBC

705

ENDLESS GruppeM

KTEL REAR WINDOW MONITOR

KYB ÖHLINS

TAKATA ODYSSEY

SARD APP

BRIDE BILLION

NEOSHI 后援商品 TOKOH



アルファプロデュース



予選1回目 12:50~13:35(混走)

天気:晴 / 路面:ドライ 気温21度 / 路温26度

午前中のフリー走行の状態をミーティングし、ギアレシオの変更をした。そのため、19号車ウェッズスポーツIS350は5分遅れで予選をスタートした。最初のアタックは片岡選手、この時点でトップタイムは81号車ダイシン アドバン Ferrariで1分56秒599を記録していた。4LAP目に1分56秒579を記録、暫定トップとなる。5LAP目には織戸選手に交代し、アタックに出る。1LAP目には基準タイムクリアとなったので、ノックダウン予選に向けての調整となった。最後に今回の予選をアタックする片岡選手に変わり、マシンのチェックで予選1回目を終えた。結果は暫定トップとなる。2番手は81号車ダイシン アドバン Ferrari、3番手は2号車アップル・K-one・紫電となる。ノックダウン予選に向けて、本来の調子を取り戻してきている。

ノックダウン予選 Session1 14:25~14:35 / Session2 14:52~14:59

Session3 15:13~15:20

天気:晴 / 路面:ドライ 気温21度 / 路温24度

Session1

F1と同じノックダウン予選。S1は片岡選手、S2は織戸選手、S3は片岡選手の予定で走る。各走行時間は10分、アタックラップは4LAPしかない。S1担当の片岡選手は2LAP目に1分55秒662を記録、暫定2番手となった。S1終了時点で順位は3番手となり、Q2への進出を果たした。トップは今回のレースで好調の81号車ダイシン アドバン Ferrariとなった。

Session2

S2は織戸選手が担当する。3LAP目に1分55秒682を記録した。暫定3番手となっていたが、各チームS3進出の為、S2予選にかけていた。19号車ウェッズスポーツIS350は決勝を見据えてのタイヤ選択をしていた為、結果8番手となり、S3への進出を果たした。トップは81号車ダイシン アドバン Ferrariとなった。

Session3

トップ10を決める今年最後の予選となる。アタックは片岡選手、もてぎでのGT500レコードホルダーでもある。1LAP目、1分57秒633を記録し6番手となる。2LAP目には1分54秒926を記録し暫定3番手となる。最後のアタックにポールポジションを賭けたが、クリアラップに恵まれず、今回の予選は3番手となった。トップはやはり好調の81号車ダイシン アドバン Ferrari 2番手にはチャンピオン争いをしている43号車ARTA Garaiya、4番手に7号車M7 MUTIARA MOTORS雨宮SGC 7となった。フリー走行からのマシンセットアップから予選3番手まで今年一番忙しい予選となったが、セカンドローからのスタートはチャンピオンに向かう絶好のポジションとなる。明日のこの時間には勝負は決まっているが、そのときにはチーム関係者は笑って迎える時間となるだろう。

監督、ドライバーコメント

坂東監督

3番手には満足しています。ターゲットタイムは55秒台とっていたので、54秒台を出してくれた片岡には感謝です。マシンは持ち込みの状態と実際のコンディションのイメージが違い、すべてセッティング変更となりましたが、ドライバー、メカニックとセットアップを煮詰めていきました。81号車のタイムは予想外でしたが、表彰台の真ん中を狙うには絶好のポジションだと思います。明日に向けてはいつもどおりミス無く、作戦の幅が広いドライバーなのでいつもより短い250kmをどう戦うか、来年に繋がるレースをしたいと思います。

織戸選手

今日1日を振返って、持ち込みセットが思ったより外れてしまいましたが、それをベースにセットアップを繰り返して、良い状態に持ち込めました。予選も片岡選手が3番手の位置を決めてくれました。今の時点では予定以上の出来だと思えます。明日の決勝が楽しみです。

片岡選手

セット変更を午前中のフリー走行からはじめ、織戸選手と共に良い方向に持っていったと思います。予選1回目でもかなりの手応えを感じていましたし、大幅なセット変更もチームワークの良さでよい方向に向いてきました。明日の朝にレースシミュレーションを行い決勝に備えたいと思います。今までのチームワークでいつもどおりの事が出来れば十分にチャンスがあると思うので明日が楽しみです。



WedsSport

LEXUS

Racing Development
TRD

ADVAN
YOICHHAMA

★ウエダアイ★
Wee Eldest Racing
北陸自動車競技クラブ

アルファプロデュース

NUTEC

Jms

AD アイシン開発

ETAS

INTREX

KDC

705

ENDLESS GruppeM

KTEL REAR WINDOW MONITOR

KYB ÖHLINS

TAKATA ODYSSEY

SARD APP

BRIDE BILION

NEOSUN 尼瀧商品 TOKOH

11月8日(日)

午前フリー走行 8:45~9:15

天気:曇 / 路面:ドライ 気温14度 / 路温17度

最終戦決勝レースにふさわしく晴れ渡る天気の中、午前中のフリー走行が始まる。スタートは織戸選手、すでに決勝に向けてのセッティングが施されている19号車 ウェッズスポーツIS350は最後の微調整に入る。決勝に向けてのデータ取り、調整がメインの為、順位はさほど問題がないが結果は11番手、1分58秒120で片岡選手が13LAP目に記録した。

トップは好調の81号車ダイシン アドバン Ferrariで1分56秒129。しかし、レーシングプロジェクトバンドウ率いる19号車ウェッズスポーツIS350は監督をはじめドライバー、メカニックとも勝つための戦略は出来ている。決勝でのピット戦略はどうか。この時点でタイヤ無交換、燃料軽めの作戦は決まった。

決勝 14:00~(53LAP)

天気:曇 / 路面:ドライ 気温20度 / 路温24度

天気は曇り、路面温度も上がらない中、今年最後の決勝レースが始まる。スタートドライバーは織戸選手、タイヤは昨日の予選Q3を走ったタイヤとなる。今回のレースはいつもよりレース距離が短く、250kmとなる。各チームの戦略もタイヤ無交換、無給油などさまざまな戦略が見られるであろう。19号車ウェッズスポーツIS350は3ポイントリードで首位をキープしているが、事実上ライバルより上位でゴールしなければチャンピオンにはなれない。スターティンググリッドを見るとチャンピオン争いをしているチームは、2番手に43号車ARTA Garaiya、3番手19号車ウェッズスポーツIS350、4番手7号車M7 MUTIARA MOTORS雨宮SGC 7、7番手46号車エスロード MOLA Z、8番手11号車JIMGAINER ADVAN F430とトップ10に入っている。19号車ウェッズスポーツIS350の戦略は、17LAP以降PIT準備、タイヤ無交換の作戦だ。



Wed's Sport

LEXUS

Racing Development
TRD

ADVAN
YOKOHAMA

★☆☆☆☆
Win Element Racing
北陸自動車競技グループ

アルファプロデュース

NUTECH

Jims

AD アイシン開発

ETAS

INTREX

KBC

705

ENDLESS Gruppe M

KTEL REAR MONITOR

KYB ÖHLINS

TAKATA ODYSSEY

SARD APP

BRIDE BILION

NEOSHI 后援商品 TOKOH

WedsSport

LEXUS

Racing Development
TRD

ADVAN
YOKOHAMA

★☆☆☆☆
Win Effect Racing
北陸自動車競技クラブ

アルファプロデュース

NUTEC

YOKOHAMA
Jims

AD アイシン開発

ETAS

YOKOHAMA
LITTELL

KBC

705

ENDLESS Gruppe M

KTEL REAR WINDOW MONITOR

KYB ÖHLINS

TAKATA ODYSSEY

SARD APP

BRIDE BILLION

NEOSUN 后援商品 TOKOH

ローリングスタート後、2コーナーで7号車M7 MUTIARA MOTORS雨宮SGC 7に抜かれ4番手に落ちる。その後は前を行く7号車M7 MUTIARA MOTORS雨宮SGC 7との差は開いていく、しかし、後方からの74号車COROLLA Axio apr GTは懸命に19号車ウェッズスポーツIS350を追い上げにかかるが、織戸選手の巧みな走行で抜くことはできない。タイヤ無交換作戦を取っている為、タイヤに負担をかけないように走行し、なおかつ後方からの追い上げも対処しなくてはならない。

この作戦を取れるのも、ベテランの織戸選手、片岡選手コンビだから出来ること、19号車ウェッズスポーツIS350はコーナリングマシンとしてタイヤの性能を最大限に引き出し、速さを追求するマシンだ。これを無交換作戦とすることは容易ではない。17LAP目には74号車COROLLA Axio apr GTにかわされ5番手となる。後方にはチャンピオン争いの1台、2号車アップル・K-one・紫電が迫る。

坂東監督はここでドライバーチェンジを指示、19LAP目には片岡選手と交代する。片岡選手は後半の約30LAPを走らなければならない。交代後、順位は10番手まで落ちるが、1LAP遅れでピットに入った3番手43号車ARTA Garaiyaを1コーナーでパス、7番手まで復帰する。21LAP目にも4番手を走行していた2号車アップル・K-one・紫電がピットに入り、これも1コーナーでパスし、5番手まで復帰となる。タイヤ無交換作戦が効いてきたようだ。

27LAP目には4番手走行となっていたが、後方では5番手2号車アップル・K-one・紫電、43号車ARTA Garaiyaのバトルが始まっていた。しかし、43号車ARTA Garaiyaはコースアウト、チャンピオンへの道が閉ざされる。28LAP目には上位のマシンが、ピット作業を終え、19号車ウェッズスポーツIS350は2番手となっていた。トップを走るのは81号車ダイシン アドバン Ferrariで26秒差となっており独走、3番手は7号車M7 MUTIARA MOTORS雨宮SGC 7で2秒後方を走る。

7号車M7 MUTIARA MOTORS雨宮SGC 7がチャンピオンを取る為には、優勝し19号車ウェッズスポーツIS350が3位以下で無ければならない。19号車ウェッズスポーツIS350としてはこのままのタイム差でマージンを築きたかったが33LAP目に出火したマシンが出てしまった為、セーフティーカーが入る。今まで築き上げたマージンが一瞬にしてなくなった瞬間だった。



今回、タイヤ無交換を敢行したのは19号車ウェッズスポーツIS350と2号車アップル・K-one・紫電でその他のマシンはタイヤ交換済み、不利な状態である。7号車M7 MUTIARA MOTORS雨宮SGC 7は黄旗の出していない区間を巧みに利用し2番手に浮上、19号車ウェッズスポーツIS350は3番手となる。35LAP目にセーフティカー解除となり、再スタートが切られた。このときの順位はトップ81号車ダイシン アドバン Ferrari、2番手7号車M7 MUTIARA MOTORS雨宮SGC 7、3番手19号車ウェッズスポーツIS350、4番手11号車JIMGAINER ADVAN F430、5番手2号車アップル・K-one・紫電となる。残り約15LAP、2番手から5番手までがチャンピオンの可能性が残った。ライバルより前でゴールしたものがチャンピオンとなる。片岡選手は巧みに11号車JIMGAINER ADVAN F430を押さえ3番手をキープする。7号車M7 MUTIARA MOTORS雨宮SGC 7もチャンピオンを狙うべくトップを猛追する。後半の長いスティントで3番手を死守しファイナルラップはそのまま3番手でゴールした。7号車M7 MUTIARA MOTORS雨宮SGC 7もトップの81号車ダイシン アドバン Ferrariを猛追するも抜くことは出来ず、2番手でゴール。これで、19号車ウェッズスポーツIS350のチャンピオンが決まった。GT500クラスも36号車PETRONAS TOM 'S SC430がドライバータイトル、チームタイトルを獲得し、両クラスともレクサスが完全制覇したことになる。レーシングプロジェクトバンドウはGTに参戦し、1年目に織戸選手とチャンピオンを獲得、そして2009年度12年目にして2度目のチャンピオンとなった。2度目のチャンピオンも織戸選手、そして今回は片岡選手とのコンビでドライバー、チームのダブルタイトルを獲得、レーシングプロジェクトバンドウ第2章の輝かしい歴史を刻んだ。開幕戦優勝から楽な戦いではなかったが、監督、ドライバー、メカニック全てのスタッフがチャンピオンを目指し、妥協なく取り組んできた成果がここで実を結んだ。また、応援してくださったスポンサー、ファンの皆様からも大きな力を貰ったこというまでもない。レーシングプロジェクトバンドウは2連覇を目指し、すでに来年に向けて始動している。

WedsSport

LEXUS

Racing Development
TRD

ADVAN
YOKOHAMA

★☆☆☆☆
Win Element Racing
北関東自動車競技グループ

アルファプロデュース

NUTECH

Jims

AD アイシン開発

ETAS

INTREX

KBC

705

ENDLESS Gruppe M

KTEL REAR MONITOR

KYB ÖHLINS

TAKATA ODYSSEY

SARD APP

BRIDE BILLION

NEOSUN 后援商品 TOKOH



決勝後のコメント

織戸選手

レース前、言葉では『絶対(タイトルを)獲りにいくぞ!』と言ってましたが、心の中では不安もありました。それだけにホッとしているというのが一番(の気持ち)です。今年コンビを組んだ片岡のことはその前からよく知っていましたし、(GT500からGT300に移るとい)経緯や気持ちも分かっていました。それだけに彼と組むならチャンピオンを目指す、と。IS350も昨年デビューして2年目で、(タイトルに)チャレンジできると思っていたから、彼が来たことによって、チームもその気になったと思います。



片岡選手

僕もホッとしています。このチームのことはよく知っていましたが、一緒に仕事をするとなれば不安もありました。でも、入った瞬間から昔から一緒にいるような温かい雰囲気、開幕戦からチームの一員として、いい和を作れました。開幕戦で勝って、このチームならタイトルを獲れると信じました。ただ、ライバルも強く、レースのレベルも高く、毎レース気を抜かず、苦しいレースもありました。そんな中で監督、織戸さんと力を合わせて、最後まで諦めずに全力を出す姿勢で挑み、いい結果が出せた。本当にこのチームに加入できて良かったと思います。(レース中は)セブン(No.7 RX-7)が迫ってきたことより、11号車に抜かれたらタイトルが逆転してしまうと分かっていましたから、そちらのバトルに気が行ってました。ただ、もてぎは抜きにくいコースだとよく分かっていましたから、守るところを守れば抜けないはずだ、と。(11号車の)平中選手はトヨタのスクール時代の同期で、そういう意味でもライバルですから、意地でも抑えきってタイトルを獲ってやろうと強く思っていました



坂東監督

(株)ウェッズをはじめ、多くのスポンサー様、本当にありがとうございました。また、たくさんのファンの後押しがあり、シリーズチャンピオンを獲得することが出来ました。今シーズンは最高のドライバー、最高のメカニック、最高の我社スタッフ、最高のヨコハマタイヤ、最高のエンジンチューナー、みんなの力で獲ったシリーズチャンピオンだと思います。

開幕前から絶対にシリーズチャンピオンを獲ってウェッズさんにプレゼントするという公約を守れてホッとしています。

来期の予定は全く未定ですが、今から来年開幕戦のスターティンググリッドにはディフェンディングチャンピオンとしてスタートできるよう全力でがんばります。監督として3年目、チームオーナーとして2年目、まだまだ勉強中です。

今後ともご指導の程、よろしくお願ひ致します。また、来期もサポートならびに応援をよろしくお願ひします。

最後にウェッズスポーツIS350、最高です。



WedsSport

LEXUS

Racing Development
TRP

ADVAN
YOKOHAMA

★☆☆☆☆
Win Element Racing
北陸自動車競技クラブ

アルファプロデュース

NUTECH

OHM
JMS

AD アイシン開発

ETAS

INTERFAMA

KPC

705

ENDLESS GruppeM

KTEL REAR WINDOW MONITOR

KYB ÖHLINS

TAKATA ODYSSEY

SARD APP

BRIDE BILION

NEOSUN 后援商品 TOKOH

アルファプロデュース

予選結果(ノックダウン予選)

1	81	ダイシン アドバン Ferrari	1' 53.951
2	43	ARTA Garaiya	1' 54.678
3	19	ウェッズスポーツIS350	1' 54.926
4	7	M7 MUTIARA MOTORS雨宮SGC 7	1' 55.001

決勝結果

1	81	ダイシン アドバン Ferrari	1:43' 43.302
2	7	M7 MUTIARA MOTORS雨宮SGC 7	0' 00.416
3	19	ウェッズスポーツIS350	0' 23.045
4	11	JIMGAINER ADVAN F430	0' 23.561

チームランキング

1	19	RACING PROJECT BANDO	112
2	7	M7 RE雨宮レーシング	106
3	11	JIMGAINER新田 守男 / 高木 真一	103
4	43	AUTOBACS RACING TEAM AGURI	96

ドライバーランキング

1	19	織戸 学 / 片岡 龍也	85
2	7	谷口 信輝 / 折目 遼	82
3	11	田中 哲也 / 平中 克幸	79
4	43	新田 守男 / 高木 真一	71